

## 第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

団体名	あびこ谷津学校友の会
活動タイトル	岡発戸・都部谷津の保全活動
活動地域	千葉県我孫子市



市民の方とサツマイモ畑の開墾(4月9日)

### 【活動の目的・目標】

かつての生物多様性豊かな谷津を再生し、人と自然の共存のシンボルとなる野外博物館(そこに行けば、いつでも見たい生き物に会える)となることを目指して保全活動に取り組んでいます。また、一般市民の方が、里山保全活動での実体験をとおして生物多様性や持続可能な社会の重要性を学べる場を提供し、よりよい地域社会の実現に貢献することを目指しています。



市民の方と田植え(5月4日)

### 【今回の活動で苦労した/工夫したこと】

今夏は例年と比べ異常な酷暑が長く続き、雨もほとんど降らなかったため、熱中症になる危険性が高く、8月の前半は草取り、草刈りの作業を中止せざるを得ませんでした。そのことが稲の生育や保全活動にも影響を及ぼしました。今年は間に合いませんでしたが、来年は空調服(工事現場などで使われているファン付きの服)の導入を検討し、25年度から助成申請させていただきたいと考えています。



市民の方と稲刈り後の集合写真(9月17日)

### 【活動の内容・成果】

開催回数：94回

参加人数：554名(会員442名、一般市民112名)

達成率：ほぼ100%

新しい取り組みの一つとして放棄された畑の開墾に一般市民の方と一緒に取り組みました。長年放置された畑は笹竹の根が張り巡らされ、幼木も根を張り、取り除くのには苦労したものの、サツマイモと落花生の畑を作ることができました。来年度は更に土壌改良と範囲を拡大したいと考えています。

異常な酷暑と雨がほとんど降らなかったことで、指標生物としているヘイケボタルの発生数が半減してしまいました。以前から雨の少ない年はボタルの数が減る傾向にありましたが、気候変動の影響は大きく、今後も注視していく必要があります。

田植えと稲刈りも一般市民の方と行っていますが、こちらも酷暑の影響が大きいと考えていますが、お米の出来はあまりよくなさそうです。

今後、異常気象が常態化することを念頭に、保全活動のやり方を考えていかなければならないように感じています。

### 【団体概要】

千葉県我孫子市にある谷津ミュージアムの保全活動を目的に2006年に発足しました。湿地・水辺の整備や樹木の手入れをはじめ、生き物調査など谷津の自然環境を再生・維持するための活動を行っています。

毎週日曜日と木曜日の週2回を定例作業日として以下のような活動をしています。

- ・放棄水田の復田とオーガニックでの米作り
- ・水辺・湿地の保全とハケの道の整備
- ・毎月1回の野鳥観察会
- ・写真展、ホームページ、SNSで情報発信

## 第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

こちらに、1ページ目の以外の活動写真を添付し、右側に説明をご記入下さい。



5月に行う田植えの準備として、田起こしと畦の整備を行いました(4月23日)。そして田植えの前には代かきを行っています。この時点では例年どおりオケラやミミズが多数観察され、生き物や気候の大きな変化は見られませんでした。



市民の方と一緒に開墾したサツマイモ畑に畝を作り、サツマイモの苗と落花生の苗の植え付けを行いました(5月21日)。この場所は基本的に雨水にしか頼れないため、条件が悪くても育ちやすい作物を選びましたが、それでも雨量の少なさは心配でした。心配をよそに、この後大きく葉を広げて育っています。秋に子供たちがつるをひっぱり上げる姿が楽しみです。



田んぼの草取りや周辺の草刈りを繰り返し行いました(写真は7月9日)。生き物のことを第一に考え、完全無農薬で稲作を行っているため、草取りは大変な作業となります。今夏は異常な酷暑であったため、熱中症の危険性が高く、8月前半は作業を中止せざるを得ませんでした。今後は熱中症のリスクを下げるため、空調服の導入などを考えていきたいと思っています。



自然の大切さ、美しさ、そして里山の保全が生物多様性の維持にとっても重要であることを広く一般市民の方に知っていただくために、夏と冬に写真展を行っています(写真は8月9日)。写真展にあわせて、やつともサポーターズの勧誘も行っています。展示パネルはこの写真の2倍以上あり、毎回楽しみにしてくださっている一般市民の方も多くいらっしゃいます。